

伊勢志摩サミットに向けた三重県の取組



伊勢志摩は、「日本の美しい自然」
 「豊かな文化、伝統」
 「日本のふるさとの情景」
 「大小の島々、美しい入り江」
 「日本の精神性」
 に触れていただける場所である。
 三重県ならではの「おもてなし」で、
 世界の皆様をお迎える。

1 伊勢志摩サミット

(1) 伊勢志摩サミットとは

2016年（平成28年）の主要国首脳会議（サミット）は、5月26日から27日まで、三重県・伊勢志摩で開催されます。

首脳会議をはじめ配偶者プログラムやジュニアサミットなどの国が行う公式行事はもとより、伊勢志摩サミット三重県民会議が行う事業、県や市町が独自に実施する関連事業にも取り組みます。



伊勢志摩サミット
三重県民会議

(2) 伊勢志摩サミット開催に向けた三重県の取組（「学び」に関する取組）

①ジュニア・サミット

ジュニア・サミットとは、国が主催するサミットの関連公式行事であり、G7を代表する15歳～18歳の中高生等が集まり、世界が直面する課題について話し合い、政府首脳に成果文書を提出する。

○名称：「2016年ジュニア・サミット in 三重」

○開催期間：平成28年4月22日（金）から28日（木）まで

○開催場所：三重県桑名市（主会場）、東京都内他

○会議（討議）テーマ（案）：

「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」

○参加者：G7各国の原則として15歳～18歳の4名のチーム
 （男性2名・女性2名）及び付添人1名



J7 Summit 2015 HP より

②子どもふるさとサミット（仮称）

伊勢志摩サミットを契機に、子どもふるさとサミット（仮称）を開催し、郷土学習・国際理解学習の成果等について発表、交流を行う等、異文化に対する理解を深め、三重で育ったことを誇りとし、世界の人々とともに生きる子どもの育成を図る。

○開催時期：5月中旬（予定）

○開催場所：伊勢志摩地域（予定）

○参加者：県内の小中学生

③多様な主体による国際理解・国際交流事業

国際理解・国際交流プログラム

- コンセプト**：サミット開催を契機として、県民の皆様に、サミット参加国について理解や交流を深めていただくため、楽しみながら学べるプログラムを実施
- 対象**：県内の保育園、幼稚園、小中高等学校、特別支援学校、行政機関、企業、各種団体等
- 主なプログラム例**：参加国の料理を作ってみよう、親子で参加国の遊びを体験しよう

「イチからわかる！サミット塾」(主催：外務省)

- コンセプト**：次世代を担う子ども達に、外交についての関心を高めていただくとともに、伊勢志摩サミットを世代を超えて盛り上げるため、県内の小中高等学校に若手の外務省職員を派遣し、サミットの説明もしながら、世界のことから身近なことまでわかりやすい授業を行う
- 対象**：県内の小(原則高学年)中高等学校
- 主な内容**：外務省の仕事、サミットの歴史、伊勢志摩サミットとは、国際交流の秘訣等

④伊勢志摩サミット給食

参加国の特色ある料理を学校給食で提供することにより、子どもたちが外国の食文化や世界について興味や関心を持ち、サミット開催について理解することを目的とする。

- 実施時期**：平成28年1月から6月の間
- 実施地域**：県内全市町教育委員会(29市町)、県立特別支援学校(11校)

2 ポストサミット

(1) ポストサミットとは

伊勢志摩サミットの「レガシー」を、三重の未来に生かすことです。サミット開催は千載一遇のチャンスであり、これを一過性にせず、サミットの資産を次世代に継承していかなければなりません。

一般に「レガシー」は遺産や受け継いだものを意味しますが、ここでは、サミット開催により地域にもたらされる有形無形の好影響を指しており、現時点で想定される伊勢志摩サミットの「レガシー」を、「知名度等の向上」「会議自体の成果」「地域の総合力の向上」の3つに整理しています。

(2) ポストサミットの基本的な考え方

サミットは、三重の知名度等を高めるチャンスであるばかりでなく、県民の皆さんが郷土に対する愛着や誇りを高めたり、自分が暮らす地域に対する理解を深めたりすることにより、アクティブ・シチズンとして一層活躍する契機ともなります。

サミット開催に向けた「オール三重」による取組は、県民の皆さんがサミットの成果を地域の発展のために生かそうとする行動や、地域をより良くしようとする行動へとつながります。そのことにより、地域の活力・魅力が高まって、観光やビジネスなどのさまざまな分野で三重が世界から選ばれるようになり、それが次世代の希望につながっていくという「正のスパイラル」が生まれ、地域の自立的かつ持続的な活性化が図られます。

(3) 取組の3つの柱

①人と事業を呼び込む

知名度の向上を最大限に生かし、国内外の人と事業を呼び込む取組を行います。

(MICEの誘致、インバウンド、食の産業振興、国際戦略等)

②成果を発展させる

サミットそのものの実績を引き継ぎ発展させる取組を行います。

(安全・安心、サミットの聖地、環境技術等)

③次世代に継承する

サミットを通じて高まった地域の総合力を、次世代の育成や地域の魅力向上につなげる取組を行います。

(次世代育成、女性の活躍等)

(4) 具体的な取組例

①高校生サミット(仮称)

「2016年ジュニア・サミット in 三重」の参加者と県内高校生等との交流の成果を生かし、ジュニア・サミットのテーマ等に関する意見交換等を実施する高校生サミット(仮称)を開催し、グローバルな視点で物事を捉える力の育成とコミュニケーション能力の向上につなげる。

○時期・場所：未定

②大学生・留学生との交流事業

サミット開催を機に、サミット開催地・三重県に、首都圏を中心とする県外の大学生や留学生等を招聘し、県内大学生、留学生との交流機会を設ける。

○時期・場所：サミット後を予定。開催場所は検討中。

○取組内容：サミットで討議された議題等に関する討議、討議に資する現場体験・学習、討議成果の発表(フィードバック) など

○参加者：首都圏を中心とする県外大学生・大学院生・留学生、県内大学生・留学生

(参考)

○三重県版未来年表(主な行事予定)

2016年	伊勢志摩サミットの開催 伊勢志摩国立公園指定70周年
2017年	全国菓子大博覧会・三重の開催
2018年	全国高等学校総合体育大会の開催
(2020年	東京オリンピック・パラリンピックの開催)
2021年	三重とこわか国体・全国障害者スポーツ大会三重大会の開催
(2023年	次回サミットの国内開催(見込み))
2026年	三重県政150年
(2027年	リニア中央新幹線開業(予定))
2030年	本居宣長生誕300年
2033年	神宮式年遷宮 遷御の儀(見込み)